

生態系に配慮した特別栽培米の取組

- 生物多様性保全機能

さかづら

逆面 エコ・アグリ^の里



フクロウとの出会いを夢見て

逆面地区は市街地に近いことから混住化が進み、農家人口が減少し、農地や農業用水などの適切な保全が困難となっている。また、近年の周辺環境の変化に伴い、タガメなどの生き物がみられなくなった地域もあることから、地域の生態系の上位に位置するフクロウをシンボルとして、豊かな自然・生態系を保全し、集落機能の低下を回復する取組を実施している。



うつのみや
栃木県宇都宮市

〔生物多様性の保全〕

フクロウの餌を提供できるより良い生態系を保全するため、健全な水田環境づくりに努めており、宇都宮大学との連携で地域の生物多様性データベース作成を開始した。

〔資源の過剰な集積・収奪防止〕

減農薬減化学肥料栽培は作付面積の9割、水田農家の8割で実践しており、環境負荷の低減が図られている。こうして作られた米は、「フクロウ米」として「道の駅うつのみやろまんちっく村」等で販売している。

〔体験学習と教育、伝統文化の継承、地域社会の振興〕

ナイトハイクやホテル観察会等の生きもの調査、田植えや稲刈りの体験を通じて、地域の環境や農業への理解促進が図られるとともに、地域の貴重な伝統文化（逆面獅子舞）を代々守り続けている。



フクロウ米の販売



各戸に設置されたモニュメント



フクロウの学術調査



生きもの調査の実施



地域の伝統文化「逆面獅子舞」